とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	連携型認定こども園ミナパもくせいの
施設所在地	東京都昭島市
法人名	社会福祉法人多摩育児会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

『動植物』

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

当園は緑豊かな東京都の郊外に位置しています。クラス名を果樹の名前にしており、その果樹が全て植えてある果樹園の園庭があり、また、生き物もメダカや川魚だけでなく、烏骨鶏を飼育していて、産んだ卵を使用した食育も行っています。身近な園環境の中で動植物に出会う場が日常的にあり、”とうきょうすくわくプログラム”ではさらに興味関心の深まりを期待してテーマの設定を『動植物』としました。

２．活動スケジュール

年間を通して日常の活動で動植物の観察やお世話を通し、図鑑や絵本で調べる活動を行い、興味・関心を高める。本だけでなく、デジタル顕微鏡なども購入し自由に使用できるように保育室の環境の中に設置。

10月に植物観察家の鈴木純さんを招いて、園内の「植物」について観察したり、遊びを行う。

10月・11月に生物学に詳しい濱田朋宏さんを招いて、「動物（生物）」について学びの活動を行う。

子ども達が振り返りの中でポートフォリオを作成し、掲示し学びの共有を行う。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

年間を通して室内に図鑑や絵本など、動植物について興味をもち、自分で調べたりできるよう本を常設し、いつでも読むことができる環境を整えた。また、デジタル顕微鏡を購入し、室内に常設することで、肉眼では見えない微細なものを拡大して観察できるようにし、より探求心を育めるようにした。

また、興味関心が高まってくる時期に合わせて外部講師を招き、子ども達と少人数のグループ活動を行ってもらい、より探求心が育まれるようにした。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

日常的に散歩で拾った木の実や葉などを持って帰ってきて室内で本を使って調べる姿があった。また、顕微鏡などでも様々な物を見る様子があった。
園内にある植物についてより探求を行うため、植物観察家の方と一緒に活動を行う。調べる中で、”蛾”（オオスカシバ）の幼虫を発見する。幼虫を室内に持ち帰り、幼虫の生態などについても本で調べ探求を行った。室内で育てていた幼虫が”蛹”になる兆候が見られたため、子ども達が話し合い、元の場所に戻すことを決めて自然に返した。
また、動物についての興味を深める過程で講師を招き、脊椎動物についての話をしてもらい、生命の誕生と進化の歴史、動物の種類と特徴、繁殖方法の違い等についても学んだ。その後も、園内の植物や飼育している魚や烏骨鶏など、自分たちで生態を調べたりする姿があった。また、学んだことをポートフォリオにまとめ、発表も行った。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

【植物の観察と遊び】
秋になると「葉っぱなくなっちゃった」という声が聞かれたが、発芽している植物を発見し、図鑑で種類を調べる活動が盛り上がる。「これはさっきのと一緒の葉の形してる」「これはさっきと違うよ」など葉の形の違いに気付いていた。また、「クチナシは葉っぱがたくさんついてるね」と季節によっても葉がついている植物もあることに気付いた。エゴの木の実を見つけた為、実を使った活動を提供する。「潰すと手が臭い！」と最初は抵抗していた子どももいたが、徐々に楽しくなり、たくさんの木の実を潰していた。その後、水を入れ息を吹きかけることで泡立つことを知ると、「もっと木の実を入れたらどうなるかな？」と自ら木の実を追加し、たくさん泡立つことを発見していた。
【動物の生態について】
外部講師の「みんなは背骨ありますか？」の声掛けから始まり、「あるよ！」と自身の背骨を指さす姿が見られた。紙芝居や年表を見ながら、背骨のある生き物についてグループの友だちと知識を共有したり、一緒に考えたりする姿が見られた。「背骨がある生き物が脊椎動物」ということを踏まえて、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類の５つの種類の特徴・違いについてワーク活動を行う。「鳥類は翼がある」「魚類は水の中で息をする」「両生類はカエル」などの声が聞かれた。様々な生き物の写真を見ながら「イルカは卵を産まないから哺乳類かな？」「サメは？」「ペンギンは鳥類？」など分類していった。また、繁殖方法では、卵の形状、孵化のさせ方などを学び「鳥類の卵は転がっても戻ってくるんだね！」と驚いていた。「アザラシの足の形状」「イルカの体表に毛が生えていない」など子どもの気付きから哺乳類にも様々な分類があることに気付くことができた。
日常の中で保育者が伝えきれない部分を外部講師の方に来てもらうことでより深く探求することができた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

日常の環境の中に本や顕微鏡などを入れ、事前に興味がわくように設定を行う事で、子どもたち自身が自然と様々な物を調べるようになっていった。中でも子ども達の動植物への関心が高く、講師の方に来てもらうことでより意欲的に取り組むようになっていった。子ども達に対する声掛けや見守り方など「子どもにさせてみる」「言葉を引き出す」ことを大切にすることで子ども達が主体的に活動を進める姿が見られた。

また、ポートフォリオを作成し、まとめることで、自分たちの活動を振り返り、疑問だったことや発見したことを共有することができた。

自分自身の好きな物事を子どもと共有すること、保育や学びに取り入れていくことで保育者も子どもとの関わりが楽しく、豊かな保育に繋がるのだと感じた。